

政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

評価項目	評価
施策04 障がい者福祉の充実	概ね適切

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【施策の環境変化】 現行の障害者自立支援法については既に廃止が決まっており、新法制定までの間においても、随時改正が行われている。 23年度においては、視覚障がい者の移動支援として同行援護のサービスが新設されるとともに、グループホーム等の家賃補助が設けられた。 また、障害者基本法の見直しや障害者虐待防止法の制定等もあり、障がい者を支援する環境は大きく変化してきている。 その中で、障がい者が地域で安心して生活をしていくための障害福祉サービスは不可欠であり、制度の浸透と共に、利用者も増加傾向にある。</p>	<p>「（障がい者が地域で）安心して」とあるが、これは「安心して」ではないか。また、「生活をしていくために」とあるが、「生活していくために」としてよいのではないか。 「（制度の浸透と）共に」とあるが、その前の部分で「ともに」として記載しているので統一したほうがよいのではないか。</p>	<p>法律の名称を括弧書きするであるとか、語句については検討・工夫し、市民の方に読みやすい形に整理する。</p>
<p>【施策の課題】 障害者自立支援法の改正に伴い、平成24年3月より障害福祉サービス利用の際にはサービス等利用計画（ケアプラン）が必要となり、障がい者が安心して相談支援を受けられることが期待されるが、反面、サービス利用までに時間を要することから、支給決定の手続きについて検討を要する。 それに伴い、サービス等利用計画を作成する相談支援専門員や相談支援事業所の拡張や、支給決定の際、内容を審査する者など、人モノの整備も課題である。 また、平成25年度より新法（障害者総合支援法）が施行されることに伴い、サービス利用の対象者に難病患者が含まれることから、支給決定を含め、スムーズな対応整備が必要となる。</p>	<p>「現行の障害者自立支援法については既に廃止が決まっており」とあるが、いつから新法になるかの記載があった方がよいのではないか。</p>	
	<p>「障がい」という言葉の表記について使い分けをしていることはわかるが、この欄内ではあまりに「障がい」という言葉の使用頻度が高く、文章が読みにくく感じる。例えば、記載のいくつかの法律の名称を括弧書きするなどして読みやすくしてはどうか。念のため、主要事業一覧の中での「障がい」の使い分けが大雑把なようにも感じるので少し整理していただきたい。</p>	
	<p>「サービス等利用計画を作成する相談支援専門員や相談支援事業所の拡張」とあるが、これでは意味が通らない。「相談支援専門員の増員」や「相談支援専門員の養成」と繋げなければいけないのではないか。加えて、もう1行下の「人モノの整備」とあるが、通常このような言い方はしないのではないか。「人・モノ」というように記載するなど検討し、表記自体も平仮名もしくは漢字で統一する必要があるのではないか。最後の行に「スムーズな対応整備」とあるが、「スムーズな対応整備」としたほうが一般的ではないか。</p>	

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【施策の達成状況】 自宅で生活している障がい者数は、障がい者総数の増加もあり、増加傾向にある。障害福祉サービス利用者数・利用率も、ともに増加しており、介護負担の軽減と障がい者の生活の質（満足できる豊かで充実した生活）の向上が、着実に実現してきていると考える。</p>	<p>「介護負担の軽減と障がい者の生活の質の向上が、着実に実現できていると考える。」とあるが、こう考える根拠がなにが不明であるので補足していただきたい。</p> <p>「自宅で生活している障がい者数は、障がい者総数の増加もあり、増加傾向にある」とあるが、平成22年度から平成23年度にかけては障がい者総数は何名の増加だったのか。その部分の補記があったほうがよい。</p>	<p>利用者の数・利用率は上がってきているが、それによって障がい者の人個々が満足しているかは確認していないので、指摘のように「着実に実現している」とは明記できないので、表現について検討する。</p>
<p>【成果指標】 自宅で生活している障がいのある方的人数（身障・知的・精神）</p>	<p>3障がいの表記について、成果指標では「身障・知的・精神」とあるが、総合計画の中などでは「身体・知的・精神」としている。これは統一した方がよいのではないか。</p>	<p>3障がいの表記について、統一されていない部分は統一する。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p>【意見・提言】</p>	<p>意図の部分で「障がいにかかわらず住み慣れた地域で、自らの意志と選択に基づき生活（社会参加）を構築できる。」とあるが、この意図に対応する成果指標がないのではないか。「障がい者や介護者の要求と、それを受け入れる社会との関わり」のようなものがここでは成果指標としてあるべきではないか。</p>

政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

評価項目	評価
施策04 障がい者福祉の充実 基本事業01 在宅福祉サービスの充実	概ね適切

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【成果指標】 訪問系サービスの利用量</p>	<p>意図で、「在宅サービスの利用を促進し」とあるが、成果指標は「訪問系サービスの利用量」となっている。この成果指標は言い換えると「在宅サービスの利用量」ということなので、成果指標の表現をそのように改めた方がわかりやすいのではないか。</p>	<p>サービスの名称が「訪問系サービス」であるためにそのまま使っていたが、市民にとってわかりやすい表記が指摘のとおりならば改めた方がよいと思うので、括弧書きするなど補記するような形を検討する。</p>
<p>【達成状況】 自宅にホームヘルパーが来て身体介助や家事援助を行ったりする訪問系サービスなどの利用量は引き続き増加傾向にあり、介護者の負担が軽減されるとともに、障がい者の生活の質の向上が着実に実現されているものとする。また、特に精神障がいがある方の居宅での自立に向けた家事援助の利用が増加している。</p>	<p>達成状況で「訪問系サービスなどの利用量は引き続き増加傾向にあり」とある。また、その後段に「特に精神障がいのある方の居宅での自立に向けた家事援助の利用が増加している。」とある。この2点について理由の記載がないのだが、根拠の記載が必要ではないか。</p>	<p>サービスの浸透と平成22年度の改正で非課税世帯の利用料がかからなくなったということが挙げられ、その中でも1番大きな要因はサービス・制度の浸透だと認識している。その部分の補記を検討する。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p>【意見・提言】</p>	<p>成果指標で、「訪問系サービスの利用量」を設定しているが、「満足度」に関するアンケートを行うなどして、そのような指標も見せた方が市民としてわかりやすいのではないか。</p>

政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

評価項目	評価
施策04 障がい者福祉の充実 基本事業02 施設サービス機能の充実	概ね適切

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【達成状況】 食事や入浴の介助支援や創作活動などを行ったりする事業所であるデイサービス事業所や一般企業への就職が困難な場合、箱折りや袋詰めなどの軽作業を行う作業場である就労訓練事業所へ通所する日中活動系のサービス利用者は引き続き増加している。また、施設で生活支援を受けたり、グループホームやケアホームなどで生活支援を受けたりする居住系サービス系の利用者は、総体は大きく変わらないが、その内容としては、施設からグループホームへと地域移行が進んでいる。</p>	<p>「日中活動系のサービス利用者は引き続き増加している」とある。また、「施設からグループホームへと地域移行が進んでいる」とある。両者の理由はなにか。</p>	<p>「日中活動系のサービス利用者」については、障がい者の就労の支援事業に注力しており、就労系のサービスを利用する方が増えていることが日中活動系サービスの利用増につながっている。また、地域移行に関する指摘だが、国の自立支援法自体の大きな目的として、施設ではなく、なるべく地域で生活していこうということがある。そのため施設の中でも地域のグループホームなどで暮らせる方については移行できるように仕組みを変えていこうという意図があり、その制度が進んでいることが理由として挙げられる。その部分の補記を検討する。</p>

担当部署の評価内容	委員の意見
<p>【意見・提言】</p>	<p>意図の中で「入（通）所による訓練により自立を図るとともに」とあるが、これに対応する成果指標として「入所による訓練により自立を図られた人数」等が必要ではないか。</p>

江別市行政評価外部評価委員会による評価結果

政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

評価項目	評価
施策04 障がい者福祉の充実 基本事業03 自立的な社会参加の促進	適切

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
<p>【達成状況】 障がいのある方の日中活動の場への外出の機会が増えており、これをお手伝いする社会参加支援事業の利用者数は、引き続き増加傾向にある。23年度においても、手話通訳者やガイドヘルパー等の養成とともに、各種会議、研修会、大会等への派遣や移動支援事業（移動に介助が必要な方への支援）へのヘルパーの派遣等について、利用者の要請に応え、順調に障がい者の社会参加を進めることができた。</p>	<p>「障がいのある方の日中活動の場への外出の機会が増えており」とあるが、それを担保するデータ等はあるか。あるのであれば、補記した方が良いのではないか。</p>	<p>成果指標は社会参加支援事業の合計値になっているが、その中でも移動支援が近年増えてきている。理由として、平成20年度に外出の際に定期的な通学・通所にサービスを使用できるとして制度を拡げた。また平成22年度に非課税世帯が無料でサービスを使用可能になり利用しやすくなった。加えて、平成22年度より市内に車椅子のまま乗車できる車をもった事業所ができ、車椅子利用者がその事業所を使うようになった。このような平成20年度からの制度等の変更を背景として、移動支援の利用者数が増えたということがある。 補記を検討する。</p>

江別市行政評価外部評価委員会による評価結果

政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実

評価項目	評価
施策04 障がい者福祉の充実 基本事業04 療養指導の充実	適切

担当部署の評価内容	委員会の指摘事項等	担当部署の対応
【成果指標】 健診・相談により早期発見された要支援者数	要支援者数が昨年度に比べ大幅に減少している理由が問診票の見直しということについて、書き方をどうするかは別にしても、どのようにかして補記等できないか検討していただきたいと思う。	表現について検討する。